

さざんか

第61号、2006年10月

収穫の秋、実りの秋となりましたが、今年は水害の影響もあってやや実りは寂しいとかきいています。でもやはり日本の風景には田んぼが一番似合うなあと思いながら、黄金の稲穂のじゅうたんが朝霧のなか海のように揺れるのを見ながら通勤していました。お米なくして日本は語れない。米がなくなれば食糧としての価値もさながら、自然を自然たらしめ、日本の景観を景観たらしめてきた青々とした水田と秋風にそよぐふわふわした稲穂がなければもう日本ではないのかも、などと考えながらの車の運転です。

時代と共に失わざるを得ないものと決して失ってはいけないものがあるのですが、田んぼは失ってはいけないものの代表だし、直接関係ないのかもしれないけど、田んぼが無くなる時は地域医療もなくなる時だろうなあ、効率だけで話をすると地方は存在できなくなってしまふなあ、と漠然とした不安感におそわれたりします。

それはさておき、またインフルエンザの季節がやってきます。今年もワクチン接種を11月から開始します。転ばぬ先の杖。備えあれば憂いなし。治療よりも予防の時代です。是非、ワクチン接種をしましょう。

病院からのお知らせ

- * 11月からインフルエンザワクチンの接種を開始いたします。ワクチン割引券をお忘れのないように。
- * 骨密度測定機器が導入されています。骨粗しょう症が心配な方は、一度測定してみたいかがでしょうか。
- * 神経内科部長として10月から花田浩一先生が赴任しました。また、研修医として川崎靖貴先生、馬越瑞夫先生が赴任しております。よろしく願いいたします。

北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

3 番目の依存症

比呂木 航平

世の中にはたくさんの中毒があります。食中毒。ニコチン中毒。アルコール中毒。水銀中毒。睡眠薬中毒。などが、言葉としてはおなじみでしょうか。ちなみに広辞苑で引くと中毒は『飲食物または内用・外用の薬物などの毒性によって生体の組織や機能が障害されること。どくあたり。』と記載されております。中毒と依存症の違いと云うか区別は難しいところがあります。

アルコールやニコチンにはほぼ完璧にその存在なしでは生きていけないほど依存している私ですが、まだ生体の組織や機能は障害されていない（と思ってる）ので、中毒とは言わず依存症と言ったほうがいいのでしょうか。似たようなものではありますが、言葉として中毒と言われるより、依存症と言われた方が気が楽であることは確かです。（アル中という言葉にはどこかトゲがあるように感じますものね）。

もっとも食中毒や水銀中毒は本人の意思に関わらず見舞われるものですが、ニコチンとかアルコールは他人から被る被害ではなく自らが選んだ毒物ですから、ちょっと同じ中毒でもニュアンスは異なり、完全依存症とか不完全依存症というほうが相応しいような気がします。〇〇馬鹿というのも似たようなものでしょうか。サッカー馬鹿、野球馬鹿、競馬馬鹿、パチンコ馬鹿。フィリピーナ馬鹿。専門馬鹿。ただの馬鹿……。

（まだ今のところ馬鹿という言葉は差別用語だから使用禁止だ！とはなっていないようです。アホ、バカ、マヌケ、オタンコナス、くそ野郎、ボケなど罵声を浴びせる言葉が使用禁止にでもなったらけっこう困りますね。）

アルコール、ニコチンに続く第3の依存症。それが最近私が陥っている活字依存症です。テレビ依存症、ラジオ依存症、最近ではインターネット依存症、などと似たようなものでしょうか。依存症、中毒などと大げさなものではなく、ようするに仕事以外の時間の多くを読書に費やしているということだけではあるのですが。子供が小さかったり、男の子やら女のこやら複数いる勤労婦人（キャリアウーマンって言ったほうがカッコいいですね）などは生活の糧を得ている職場以外に、帰宅後ももう一つ子育てという職場があるようなもので、とてもそんな時間はとれないでしょうが、幸いと云うか不幸と云うか、半単身赴任生活の身には時間は沢山あります。

最近、はじめたことは遅ればせながらインターネットで本を注文するようになったことです。これまでは大体月に2、3回は鹿児島市の大きな書店まで行くのが楽しみで土曜日の午後をそれに当てていましたが、今年になってやや仕事が多忙になりその時間が取れなくなってきたことがインターネットで本を注文するきっかけでした。みなさんご存知のアマゾンを利用しています。（アマゾンって知らない方もいるかもしれません。ネット通販の

企業名です。ネット通販ということを知らない方がいるかもしれません。テレビショッピングのインターネット版というところでしょうか。テレビショッピングを知らない方がいるかもしれませんが、それは・・・もう知りません)

これまでは、まったく勝手な思い込みと云うか幼稚な信念というか、アメリカの企業を潤すよりも少々不便で非効率的であっても街の書店に行き本を購入し、その書店に利益を出してもらったほうが、日本国のためであると思つての土曜午後の書店通いでした。書店はその国の文化度を示すものさしの一つです。それに高速道路代、駐車料金の支払いも地元社会に還元・貢献できるし、などと思つたりもしていましたが、人間、貧すれば鈍する。最終的には書店を潤すとか地元へ還元とかの薄っぺらな信念は多忙の前にふっとび、便利なアマゾンに走ってしまいました。

それにしても資本主義の本家の賢いことには驚きます。ある本を購入すると、その本を購入した読者は大体そのほかにこういう本も購入していますよという宣伝がパソコン画面上に同時にでるのです。たとえば、恩田陸の「夜のピクニック」を注文しようとするとその画面に恩田陸のその他の著作（「6 番目の小夜子」など）が出るので、おお、これも買ってみようかという気になりますし、ある経済関係の本を買うと同じ傾向の最近の売れ筋の本が並んで掲示されます。さすがにやつら（アングロサクソン）は賢い、と感心することしきりでした。モンゴロイドも負けてはいけません。

ただ、自由競争社会であるし、アイデア勝負だから別にアメリカ企業だからとか日本企業だからとかは関係ないか、よいものは良いのだ。それがグローバリズムということだろう、などとまことに勝手な新たな思い込みをすることにしています。少なくとも本を届けてくれる宅配業者は日本企業だろうし、日本人の本を買うのだから印税は日本人に入るだろう（まさかアマゾンが印税までピンハネすることはないだろう）しと。

ペリー提督の黒船来航以来、常にわが国の憧れと云うか、目標でもあったアメリカ。一時は、我が身を過信して逆らってみたものの、いとも簡単にギャフンと言われ、それ以降は何も言わずにアメリカについてきました。貿易黒字が多すぎると言われればそれを減らす努力をし、規制緩和しろと言われればそれに従い、アメリカ向けの構造改革に全力を尽くし、郵政民営化しろと言われれば反対する同僚議員を首にしてまでそれに従い、イラクに自衛隊を派遣しろといわれればいわば禁じ手である海外派兵も厭わなかった我々日本人。いまさら、たかがアマゾンを利用したところでどうってことはないのだろうと居直っています。しかし、一方では、中国からの輸入モノの漢字に飽き足らず、かな、カタカナと2つの新たな文字を発明し、縦書きでも横書きでもそれらを縦横無尽に駆使し自由に表現できる柔軟性と懐の深さを示す日本語（文）が掲載された書籍を購入するのに、したた

かに市場調査をし高度に効率化された便利で賢いアメリカの企業のみを利用し続ければ、日本の書店はいずれ雑誌ばかりしか置かない書店しか生き延びていけないのではないだろうか心配をしたりしています。(雑誌はコンビニか。すると書店の存在はやはり危うい？そう言えば街の小さな本屋さんって今は見ないですね) 古典本もアメリカ企業経由でしか手に入れることはできなくなるのじゃないかなどとも。

アイデアを生み出さないと生きていけない土壌の中でもまれる競争社会のアメリカと比べると、和を貴しとする日本社会はまだまだ奇抜なアイデアを生み出そうとする動機が少ないというのが現実でありその気風はなかなか変えることできませんが、もう、いつまでも単純に黒船に驚いていたたり、無節操な競争に憧れ、もの真似ばかりすることはやめたいものです。少なくとも医療の世界だけでもアメリカのもの真似をするのはやめてほしいと思います。金持ちはどんな高度医療も受けられる一方、医療保険に入れない人々が 4000 万人もいるアメリカ社会をお手本にして欲しくないと思います。金の切れ目が贅沢の切れ目ではあっても、金の切れ目が命の切れ目であってはならないと思います。多少の犠牲は払っても国民皆保険は守っていききたいものですね。

さて、おそらくいくら IT 化しても書物という形態はなくならないでしょう。(紙媒体は人間とは決して切れないような気がします。木材と云う自然を身近に感じるからでしょうか。紙の匂いっていいですよ。必要はなくてもプリントアウトしないと落ち着かないことが多いように思いませんか?)。液晶の画面で恋愛小説は読む気がしません。活字依存症になっている私にアマゾンを凌ぐ便利な国産の手段が訪れる日は近いのでしょうか。もしかしたら生涯アマゾン依存症に陥らざるを得ないのかもしれないかもしれません。そしてそれは、こよなく日本を愛する私にとってなんて悲しい現実であることでしょう。

子供にダイエットは危ない

宮園辰夫

成人式の振袖姿なんて、かなわぬ夢、娘と一緒に死のう。鹿大へ向う途中、曾於市の母親はハンドルを切り掛けたのは一度や二度ぢやない。小学校 5 年の担任の先生から、娘さんは給食を残し、余りなんでもたべない、なんかどんどん痩せていくようだし、拒食症ではと言われた。そんな病名も知らないのに、どうしたものか、身長は 135 糎、体重は 35 キロ。学校ではなんでもよく出来、運動も得意で明るく頑張り屋であり、それ程手のかからない娘。

家では思春期とばかり思っていたが、急に少食になり、運動だけに熱中し、家の中でも小走りになり、体重計に乗り、少しやせた感じだと喜んでい。おかしいなーと感じては

いたのですが、どうしても思っ病院に連れて行って見ましたが、はっきり病名は判りません。真夏にはあの好きであったアイスクリームも食べ様とはしない。それに炎天下でも寒い朝でも走り続けては体重計で計る。益々おかしい。そこで主人が家庭の医学という本を買って来た。所がその本の中に拒食症という記事が、娘の症状そのものだった。びっくりして体重も 25 キロになっていて、益々心配になり、鹿大へ。

所がこれはひどい拒食症といわれ、ビックリ。学校ではそれでも成績は良いほうでしたが、あまり食べ様としない。小さなおにぎりとかワカメ、こんにゃく等。ケーキを作っても自分で食べ様としない。拒食症特有の症状という、骨に皮がついている様な 23 キロ。裸はもちろん見るに耐えない。生理は止まり、産毛だけが濃くなり、おしりは勿論肛門が見える位肉は落ち、見るに忍びない。夏でも布団が必要。周りからは、なんでこんなに。もっと食べなさいと心配してくれる。同じ娘をもった家族は皆心配して下さる。ところが一部の学校では将来を夢見て、タレントやファッションモデル等、「やせ」を美化する風潮の中で、自分を持たない子供になっている。

病院の心身医療科の教授は、いい子は親の望みを察知して期待にこたえようとする。我慢やストレスの解消法として、痩せることに走る。小学、中学、高校の間はウンと食べて、一生懸命運動して、一途に勉強することが一番大切な時期である。拒食症は長引けば死の危険性もある。親が子供と向い合うことが、一番大切である。その子が大学に進み、20 歳で成人式を迎えた時は笑い、その時子供の頃の事を話をする馬鹿だったんだよね、と何食わぬ顔。親は子供が元気で、子供の弁当を作るときが……。それ丈でいい。

「病んでのち健康の価値を知る」

随想 3 題

貴島高則 91 歳

その 1：幸福と自由

幸福とは、幸せを分かち合っこそ、初めて自分も幸福になれるのだ、と云うことを人間は誰でも知っている。幸福の感じ方は人それぞれによって違う。明るい太陽のもとで、白い洗濯物がそよ風にひるがえっているのを見ただけでも家族を中心にした幸せを思う人もいますし、巨万の富を築き高い位に昇ってもなおかつ満たされない気持ちの人もいます。心のもんだいのむずかしいところです。私達は勘違いしていたのです。自由というのは、ものごとのすべてを自分を中心に考えればいいのだと、思っていたのです。しかし、それ以前に肝心なのは、皆がきちんとルールを守るからその範囲の中で、人間ははじめて自由に生きられるのであって、そこに権利も義務も平等に存在するのだとすることだったのです。

その2：大事な幼児の躰と教育

今の子供達は小さい時から親を敬い、兄弟仲良くお友達とも仲良くして遊ぶことを父母からしっかり教わっているのだろうか。保育園や幼稚園などの集団生活の場でも、その基本を良く教えず、そのまま小中学校へ入り、急に愛国心などと言われても手遅れだと思います。まして只今は少子化時代です。大事にされ、自己中心、我儘に育てられています。

他人の迷惑を考えず、道端に物を捨てる。どこでも座りこんで飲食をする。「ガンクロ」なんてみっともない化粧をして得意になっている。成人式のあの馬鹿騒ぎはなんだ。こっちの方が恥ずかしくなるくらいだ。これはほんの一部の人達だが、外国の人はこんな日本人を見てどう思うだろうか。マスコミもただ面白くニュースにするのでなく、もっとしっかりした精神を報道してもらいたいものです。

その3：孝行和賛

夫れ人間と生まれては、先ず孝行の道を知れ。

親に不幸の輩は鳥獸にも、劣るなり。其の孝行のおもむきは、親の心をよろこばせ、苦勞をかけしを慎みて、大酒口論致さず、朝は早起き、夜晩く迄、夫々家業を怠るな。兄を敬い、弟を恵みて、親類仲良く致すべし。婚礼するには、其の容儀里の貧富にかかわらず、親に孝行ある人を求めて、家の妻とせよ。女子は嫁入りする先の、姑舅とを父母と思い、あつく孝行致すべし。若し父母が愚かにて、わけなく己を憎むとも、我が孝行の足らねばと自らせめて、露程も親を憎む事なかれ。父母に孝行する人は、子孫の栄も思うべし。家の繁盛する、せぬは子の善し悪しによるものよ。親の身持ちが悪しければ、おのずと子供も不埒なり。親に孝行ある人は、神も仏もあわれみて、常に守らせ給う故、その身も安く、子孫まで余慶を受くる事となる。教えを守り、孝行を末期怠るなかれ。

私共の若い頃はこんな教育をされたものです。

私の選んだサツマ狂句

貴島高則

布団どま無かてとまれ泊まれ言う

嫁いびいどころかばばがいびられ

槿(むくげ)

時吉政江

7月3日に入院になった。どしゃぶりの雨がふって、やんだので、私はひとりぼっちで中庭のきれいに洗われている石を見つめながら、あの白い石は菱刈鉦山から拾ってきたのだろうかと思たりする。病院の建物は古くなってはいても、高橋浩一の書道が幾年もはりつけてあったが、平成18年7月5日にはきれいにはがしてあった。待合では、薬を貰う時の番号のランプもつかない。薬を貰う人は10人くらいで、走り回ることなく、ひとり、ふたりという。呼び出しの仕事場は画面をにらめっこしながらの仕事場となった。コンピュータ時代となった平成10年ころからだったかなー。

(旧) 院長さんと幾千里と歩かれたであろう県立北薩病院。いつもピカピカの廊下を、下をむいてみーんな見ている知っている。私は7月となって夏の槿の花を取りに庭に出て、ふと空を仰ぎ見るとカラスが5羽でカアカアと鳴きながら飛んでいた。家族だろうかと思いつつ、槿の花をやっとの思いで取ってやっぱり夏なんだと思った。暑かった。なぜなら、私は病名がハムを名づけられ、汗が出ないからだろう。そして(旧)売店は憩いの場所となり、平成6年頃まではうどん屋さんだった場所に新しく売店出来た。弁当を食べながらの憩いの場所になった。「たった」私のために裏玄関も自動ドアになって、コンクリートのスロープが出来たのかなあ。私のために。外に出るのが、入院生活の楽しみとなり、四季の流れと時にかなって美しく咲く花たちと語りながら、車イスとともに廻って、いつも空を仰ぎ見ながらはやくお迎えがきますようにと祈ってみた。

(旧) 病院長さんも沢山の問題や難儀な事柄をひとつひとつ解きながら歩かれたであろう。車イスとともに大きな木の下には青コケがいっぱいいつている。金木犀や桜にも青コケがいっぱいいつていた。散る桜、残る桜も散る桜。良寛さんとやらはどんな人だったのだろうか。物のない時代に多くの歌を残されていらっしやるけど、学問のない私にはハムの病名がつけられた。若者の美しさはその力、老いた者の光輝はその白髪である。これからの県立北薩病院は若者たちが沢山の知識と貴重な指導によって、老いゆる者たちは若者の男性看護師たちの美しいその力を楽しみとして、時とともに本当に時代は移り変わるけども、愛が沢山生まれることを喜びとしたいものです。槿の花よ、私ができるまで咲き続けておくれ、県の職員の白衣のように白く白く咲き乱れておくれ。

台風

西屋敷喜美子

今年もまた私の嫌いな季節がやって来た。それは台風である。まだはるか彼方南の熱帯

低気圧の時から大騒ぎ。食欲がない、動悸がする。眠れない。家の中をウロウロして落ち着きの無さこの上ない。台風の時のあの不気味な音、ジェット機が何機も我が家の方へ向って飛んで来るような音。また大雨の音。耳を塞ぎたくなるように恐ろしい。布団を被って台風が過ぎ去るのを待つより外はない。

恐ろしいのは自分だけでない、と開き直るのだ。昔からの言い伝えに「地震、雷、火事、おやじ」となっているが、その中に台風が入っていないのが不思議である。現代社会は「おやじ」の権威が地に落ちてしまったので、「台風」と入れ替えたい気がするのは私だけであろうか。話は変わるが、現在空き家になっている夫の弟の家が私の家から三十メートルくらい離れた所にあり、夫が管理をしている。弟の家は南東に小さな山があり、また雑木や竹など植え込みがあるので風が当たらない。

これぞ神の助けだと直感し、弟の家に自主(?)避難することに決めた。それは良しとしても生活用品を持ち込むのが大変だ。忘れ物がないように、びっしりとメモしている。重い物は夫が運んでくれる。我が家ではないとなかなか落ち着かない。だが、長くても一日だ。頑張ろう。やはり風の当たりが全然ちがう。これで良いんだ。夫とテレビで台風情報を観る。夫は台風の進路や現在位置等を地図に赤ペンで書き入れている。台風之夜はまんじりともしない。早く台風シーズンが終わってくれるのを祈るのみだ。

俳句

西屋敷喜美子

コンクール 会心の作 秋の空

まないた
俎の 音のかろけき 秋の風

年金の つま 儉しき暮し 秋の雨

短歌

宮園辰夫

産まねば産まぬ産めば産みたる不安あり遠くに住む嫁を思えば

千五百年経たる古墳の人骨は土に還りて跡片もなし

苦手ん歌廻って来たや弱虫^{やっせんぼ}は逃げ

動^{うごか}ん亭主^{ととめし}世辞^{じく}で動か^かす利口^かな女房

編集後記

秋の夜長。いかがお過ごしでしょうか。お月様はともかく、済んだ夜空にきらめく星たちが何千光年とか何万光年か前の輝きを伝えていると考えただけでも、なんとなくロマンチックな気持ちになりますね。悠久の自然の中での短い人生。有意義に過ごしたいものです。

発行所：県立北薩病院さざんか編集局

発行責任者：高橋浩一